S I A S R　(Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

ウ　イ　ル　ス　性　胃　腸　炎

2007 年 1 月から 2008 年 3 月に感染性胃腸炎として埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターに搬入された検体は 43 検体あり、検査が終了した 42 検体のうち 25 検体からウイルスが検出されました。図 1 に検出されたウイルスを月別に示しました。2007 年 10 月から 2008 年 1 月にはノロウイルスが主として検出されており、2007 年、2008 年ともに 3 月以降はロタウイルスが中心に検出されました。また、2007 年 3 月、5 月にはアストロウイルスが検出されており、春季の流行が推定されました。サポウイルスとアデノウイルスは検出数が少なく、季節性は確認できませんでした。

検出されたノロウイルスのうち 7 株について遺伝子解析を実施したところ、すべて 2006/2007 シーズンに大流行した GenogroupⅡ、genotype4 に属するウイルス（2006b 変異株）であり、県内で発生した集団胃腸炎から検出されたウイルスと同一の配列をもつウイルスも検出されました。

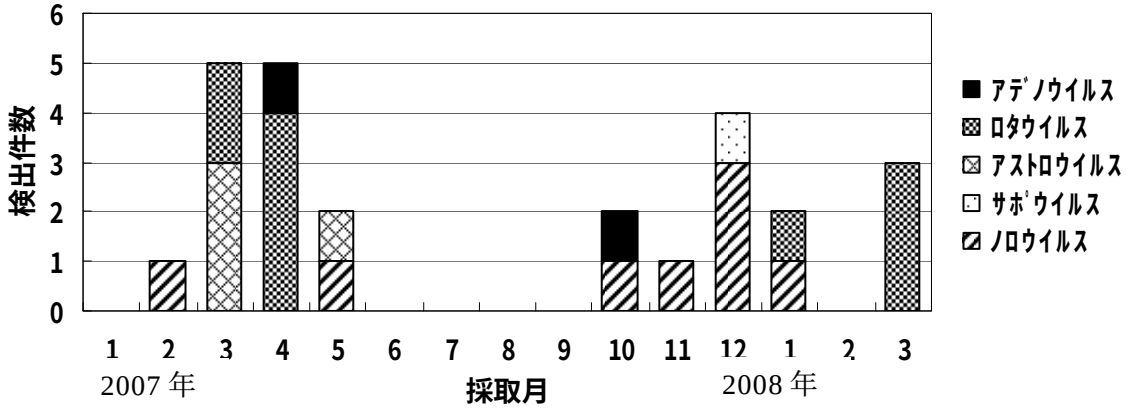

図１　感染性胃腸炎検体から検出されたウイルス（月別）

ここ数年、genotype4 ウイルス株は集団発生の主原因ウイルスとなっており、検出されるウイルス株には年ごとに変異が認められます。しかし、県内の小児の感染性胃腸炎において、この様な変異株が出現しているのかは把握できていません。病原体定点における検体採取を積極的に実施してくださるようお願いいたします。